

瀧の一生から学んだ  
努力の価値



県立宇都宮女子高等学校  
3年 芳賀奈月さん

プロフィール

学校の課題の一環で、昨年開催された「第66回青少年読書感想文全国コンクール」に応募。課題図書の一つ「廉太郎ノオト」で、内閣総理大臣賞を受賞。

毎年、小学生から高校生まで、全国の児童・生徒が参加する「青少年読書感想文全国コンクール」。数多く応募される作品の審査は、まず、各学校で行われ、小学校低・中・高学年、中学校、高等学校の区分ごとに市区町村コンクール、都道府県コンクールと段階的に進んでいきます。都道府県コンクールで各区分2点にまで絞られた作品は、全国コンクールで審査されます。

このような厳しい審査が行われる中、見事、高等学校の部で、芳賀奈月さんが最優秀賞となる内閣総理大臣賞を受賞しました。

芳賀さんは「自分が内閣総理大臣賞を受賞したと聞いたとき、どれほどすごい賞なのか分からず、実感が湧かなかった。家に帰って家族に話すと、母がものすごく喜んでくれた。その様子を見て、ようやく嬉しさが込み上げてきた」と笑みがこぼれます。

芳賀さんが選んだ本は、音楽家、瀧廉太郎の一生を描いた「廉太郎ノオト」。「表紙がきれいだったので、音楽の授業で習って瀧廉太郎を知っていたので、興味が湧いた」と手に取ったきっかけを振り返ります。

「一番印象に残ったのは、瀧が亡くなるシーン。瀧は、生前、音楽家として成功しないまま、若くして亡くなってしまふ。自分の人生は無意味だったと嘆き、一生を終えた。後の世代にも語り継がれるような偉大な人でも、そんなことを思うんだとショックを受けた」と率直な気持ちを語ります。

しかし、「潰れたと思った夢を、後世の人が引き継いでくれることもある。努力したことが後に実っていく。どんな努力も無駄にはならないと前向きに捉えられた」と心動かされた瞬間を思い返します。

普段の読書については「あまりたくさん本を読む方ではなかったが、昨年の自粛期間からは、よく読むようになった」とはにかむ芳賀さん。「読書感想文などの作文を書くのも、今までは苦手意識があった。でも、今回の賞を受けて、自信が付いた」と晴れやかな表情です。

また、将来は、「医療関係に進みたい。祖父や父のような医師に憧れる。そのために、今は、来年の大学受験に向け、勉強に力を入れたい」と真剣な面持ちです。

瀧の人生に触れ、努力の価値を見出した芳賀さんは、これからの夢に向かって突き進んでいきます。